

学生の確保の見通し等を記載した書類

山口大学工学部創成工学科

目 次

(1) 新設組織の概要	3
①新設組織の概要(名称、入学定員(編入学定員)、収容定員、所在地)	3
②新設組織の特色	3
(2) 人材需要の社会的な動向等	4
①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析	4
②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析	6
③新設組織の主な学生募集地域	7
④既設組織の定員充足の状況	7
(3) 学生確保の見通し	7
①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	7
ア 既設組織における取組とその目標	7
イ 新設組織における取組とその目標	11
ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数	12
②競合校の状況分析(立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況)	12
ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性	12
イ 競合校の入学志願動向等	12
ウ 学生納付金等の金額設定の理由	13
③学生確保に関するアンケート調査	13
④人材需要に関するアンケート調査等	15
(4) 新設組織の定員設定の理由	16

（１）新設組織の概要

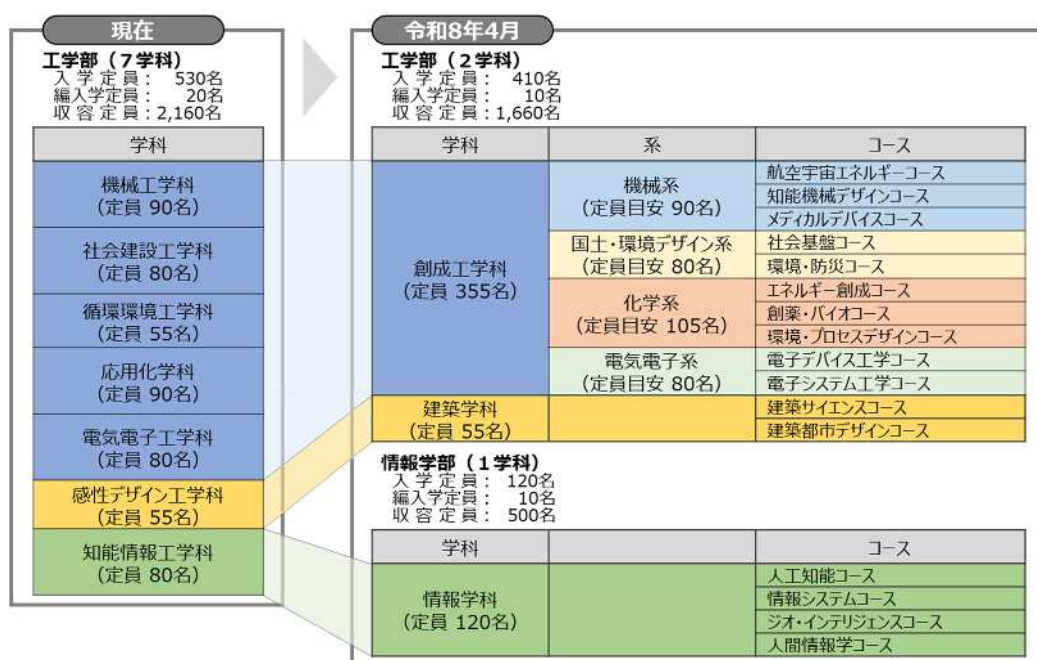
①新設組織の概要（名称、入学定員（編入学定員）、収容定員、所在地）

新設組織	入学定員	3年次編入学定員	収容定員	所在地 (教育研究を行うキャンパス)
工学部 創成工学科	355 名	10 名	1,440 名	山口県宇部市常盤台 2-16-1

②新設組織の特色

(1)学部の特徴

近年の情報通信関連技術の急速な進展により、超スマート社会が提唱され、産業構造や分野、社会を取り巻く環境が大きく変化している。我が国が目指す未来社会である Society5.0 を実現するために、また、国連が提唱する持続可能な開発目標 SDGs を達成するために、今まで以上に工学系人材に対する社会からの期待が高まっていることから、現在の工学部の中の5学科（機械工学科、社会建築工学科、応用化学科、電気電子工学科、循環環境工学科）を統合・再編し、機械系、国土・環境デザイン系、化学系、電気電子系の4つの系で構成される「創成工学科」1学科とする。また、感性デザイン工学科のカリキュラム体系を改編して「建築学科」に再編し、工学部2学科構成とする。なお、現在の知能情報工学科は、国が目指す Society5.0 の実現に貢献する高度な情報技術の知識と技能を修得した IT 人材を養成するため、情報学部として独立する。改組前と改組後の組織を以下に示す。



改組前と改組後の組織

-学生確保（本文） 3-

この再編により、創成工学科では、専門分野に関する学修だけでなく、複数の工学系分野を横断的に学修できる教育体制を構築することで、スペシャリストとして深い専門性を身に付けるとともに、他分野の知識を幅広く身に付け、科学技術の発展とイノベーションを担う創造的な工学系人材を養成する。また、建築学科では、人文・社会科学、芸術と理工系の諸分野を統合し、建築や都市、まちづくりに関わる文理の壁を超えた広範な領域の知識や技術に加え、デザイン・プレゼンテーション能力、人の感性を理解する科学的知見を相互に結びつけるための効果的で独自の教育体制を構築することで、俯瞰的視野から創造性を発揮できる人材を養成する。

(2)創成工学科の特色

創成工学科は、教育課程をベースにした4つの「系」を置くことにより、既存の学生定員に縛られる学科体制ではできない、工学の専門分野の人材養成に関する社会的ニーズの変化に対して、柔軟かつ速やかに対応できるようにする。また、既存の学科体制で陥りやすい視野の狭いタコソボ型教育から脱却し、高い専門性を担保しつつ、それにとどまることのない幅広い視野を持ち、社会課題に主体的に取り組むことができる人材養成を行う教育体制とする。具体的には、工学教養科目の異分野展開科目を必修科目として開設し、1年次には機械系、国土・環境デザイン系、化学系及び電気電子系における学びの概要を知るところを目的として「工学入門」を開講し、工学分野を横断した幅広い知識を育む教育を行う。この学びにより、学生自身が自分の学びたい分野のイメージを明確にさせることによって自分のキャリアデザインを描けるようになること、自分の学びたい分野とその他の分野との関係を理解させることができる。さらに、3年次に「系概論」を開講し、特定の専門分野だけでなく、他の専門分野についても幅広く知識を得ることにより、複合的な諸問題を俯瞰的に捉えて課題解決に取り組むことができる能力を養成する。これらの取り組みは、各コースの担当教員が連携・調整を行いながら専門（系・コース）をまたいで授業をすることにより、学生の専門知識を一専門分野の知識にとどまらない範囲に広げることができる仕掛けであり、1学科体制とすることにより得られる大きなメリットである。

また、各系・各コースにおいて、各分野における先端技術を国内外及び地域に還元できる工学系人材を育成することを目標にカリキュラムを設定する。

(2) 人材需要の社会的な動向等

①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

近年の情報通信関連技術の急速な進展が産業や社会の構造変革をもたらし、第4次産業革命や超スマート社会（Society5.0）がうたわれる中、大学における工学系教育の在り方に関する検討委員会「大学における工学系教育の在り方について（中間まとめ）2017年6月」では、戦略的に強化すべき基盤技術として、AI（人工知能）、IoT（Internet of Things）、ビッグデータ解析技術、システム構築技術、サイバーセキュリティ技術などを

挙げている。産業や社会を取り巻く環境が激変する中で、日本の基盤技術を俯瞰すると、個々の要素では世界トップレベルの技術を有する分野がある一方で、システム化や統合化の点では国際的な立ち後れが指摘され、早急な対策の立案・実施が要請されているとしている。そして、社会科学・自然科学・技術の世界的なパラダイムシフトを、我が国が早急かつ円滑に達成するための重要な鍵の一つは、優れた工学系人材の育成であり、高等教育への期待や要請が高まっているとしている。さらに、同中間まとめでは、我が国の工学系教育は、明治以来の学科・専攻の編成を堅持したまま現在に至っているものも多くみられ、産業構造の変化を踏まえた柔軟な組織構造への転換が行われていないため、学科・専攻の定員制度を柔軟化することにより、分野構成等の教育体制の柔軟な運用が可能となり、社会の要請・科学技術の構造の変化・産業分野の変化に迅速に対応することができる教育体制の構築を目指すとしている。

また、教育未来創造会議「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第一次提言）2022年5月」においては、我が国の人材育成を取り巻く課題として、「少子化の進行」、「デジタル人材の不足」、「グリーン人材の不足」、「高等学校段階の理系離れ」、「諸外国に比べて低い理工系への入学者」、「諸外国に比べて少ない修士・博士号の取得者」、「進まないリカレント教育」などが挙げられている。これらの課題に向き合い未来を支える人材を育成するために、高等教育においては、リテラシー（数理的推論・データ分析力、論理的文章表現力、語学力・コミュニケーション能力等）、論理的思考力と規範的判断力、課題発見・解決能力、未来社会を構想・設計する力、高度専門職に必要な知識・能力を培うことが求められている。これらの知識・能力を身に付けた人材を育成するための大学の機能強化、また、理工系や農学系等の分野の学部においてデジタル、グリーン等の成長分野をけん引する高度専門人材を育成し、質・量の両面から世界をリードすることを目指すために、大学等の再編促進の取組を集中的に進めていくことが求められている。その具体的方策として、デジタル・グリーン等の成長分野への再編・統合・拡充を促進する仕組みの構築、地方公共団体と高等教育機関の連携強化促進、STEAM教育の強化・文理横断による総合知創出、大学院教育の強化等が示されている。特に理工系分野学生の割合は現状で35%と諸外国に比べて低く減少傾向にあることから、将来的にOECD最高水準の50%を目指すとしている。

さらに、中央教育審議会大学分科会の「学修者本位の大学教育の実現に向けた今後の振興方策について（審議まとめ）2023年2月」においては、「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（GD 答申）（2018年11月）」以降の高等教育改革の進捗や課題等も踏まえて、主として学士課程教育を念頭に、主専攻・副専攻制の活用等を含む文理横断・文理融合教育の推進、出口における質保証の充実・強化、学生保護の仕組みの整備という3つの論点について整理されている。

このような中、山口県では、県が目指す県づくりの方向性を、市町、関係団体、企業・大学等、県民と共有し、共に取り組んでいくための指針として、2022年度から2026年度

までの 5 年間の総合計画である「やまぐち未来維新プラン」を策定し、山口県の強みを最大限に活かし、「産業維新」、「大交流維新」、「生活維新」の 3 つの維新を掲げて推進していくとしている。特に、山口県の活力の源となる産業力を大きく伸ばすとする「産業維新」においては、20 の「維新プロジェクト」と 72 の「重点施策」が示されており、重点施策には、「産業におけるデジタル化の加速」、「航空機産業・宇宙ビジネスへの挑戦」、「2050 年カーボンニュートラルへの挑戦」、「脱炭素社会の実現に貢献する環境・エネルギー関連産業イノベーションの創出」、「全国をリードする水素先進県の実現」といった様々な施策が掲げられている。また、県民誰もが、豊かさと幸せを感じながら、いつまでも安心して暮らし続けられる山口県の基盤を築くとする「生活維新」では、「防災・減災対策の強化」、「暮らしの安心・安全の確保」、「活力あるまちづくり、にぎわいの創出」等の施策が掲げられている。

本工学部においては、これまでも知的財産の活用・促進あるいは人的交流や産業人材の育成・輩出を通じて、地域の産業振興の施策に係る科学技術の進展に貢献してきたが、地域の高等教育機関において工学系分野の発展を中心的に担う組織として、引き続き、地域課題について、人材養成を含めて解決に寄与することが求められている。

②中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

2024 年度（令和 6 年度）に大学進学時期を迎える高校生は全国で 1,040,730 名程度いたが、【資料 1】のとおり、今後中期的には減少していく傾向にあり、工学部を改組して 10 年目にあたる 2036 年度の大学進学時期を迎える 18 歳人口（2024 年度時点で小学 1 年生）は 934,195 名と、2024 年度の 89.8%となる見込みである。

本学の 2024 年度における都道府県別入学者数等は、【資料 2-1】のとおりで、志願者・受験者・入学者ともに最も多い県は、山口県である。都道府県別の志願者数（その他及びその他（外国）を除く。）は合計 6,170 名で、そのうち山口県内が 1,426 名（都道府県別合計の 23.1%）、山口県外からは 4,744 名（都道府県別合計の 76.9%）と全国から広く志願者を集めている。

本学の 2024 年度の都道府県別志願者数に【資料 1】で示した都道府県別・性別の増減率（2036 年度進学対象者 ÷ 2024 年度進学対象者）を乗じて算出される「2036 年度志願者数の予測」は【資料 2-2】のとおりで、都道府県別の志願者数の合計として 5,534 名が見込まれ、現状の入学定員 1,919 名（2024 年時点）を維持した場合、想定志願倍率は 2.9 倍となり、一定の志願者の確保が可能であると判断できる。

【資料 1】18 歳人口推移（2024 年度進学対象者～2036 年度進学対象者）

【資料 2-1】山口大学 2024 年度（令和 6 年度）都道府県別入学者数等一覧表

【資料 2-2】山口大学 2024 年度実績に基づく 2036 年度志願者数予測

③新設組織の主な学生募集地域

2024 年度の入学実績において、中国地方、九州地方、近畿地方の出身者が入学者全体の 88.1%を占める。このことから、本学部の主な学生募集地域は中国 5 県を中心とした、西日本地域を見込んでいる。

【(再掲)資料 2-1】山口大学 2024 年度（令和 6 年度）都道府県別入学者数等一覧表

④既設組織の定員充足の状況

山口大学は、人文学部、教育学部、経済学部、理学部、医学部、工学部、農学部、共同獣医学部及び国際総合科学部の 9 学部を擁する総合大学である。既設学部等の令和 2 年度から令和 6 年度までの入学定員充足の状況について、「【資料 3】山口大学学部別入学定員充足状況（令和 2～6 年度）」と「【資料 4-1～4-5】山口大学既設学部における入学志願状況等（令和 2～6 年度）」により学科別の志願者数、受験者数、合格者数の詳細についての資料を提示する。

学部別の入学定員充足率は、令和 2～4 年度は大学全体の入学定員 1,917 人に対して 102～103%、令和 5～6 年度は 1,919 人に対して 101%～103%となっている。また、各学部の入学定員は、1 学年 30 人と小規模な学部から 530 人と大規模な学部が存在しているが、全ての学部で継続して入学定員を充足しており、安定的に学生を確保している。この間、本学全体の志願倍率（志願者数÷入学定員）は令和 2～6 年度の 5 年平均で 3.7 倍である。

また、本学部の基礎となる工学部 6 学科（機械工学科、社会建築工学科、応用化学科、電気電子工学科、感性デザイン工学科、循環環境工学科）の入学定員充足率は、令和 2～6 年度は 6 学科合計の入学定員 450 人に対して 100～105%となっている。この間、6 学科合計の志願倍率（志願者÷入学定員）は令和 2～6 年度で 3.36 倍である。

さらに、令和 7 年度入試においては、（3）①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果に記載した学生確保に向けた取組を実施した結果、6 学科の志願者数は 1,473 名となり、改組後の工学部の入学定員 410 人に対して 3.5 倍以上の志願者数となることから、今後も学生確保に向けた取組を継続・発展させ、志願者数の維持に努めることにより、入学定員充足に必要な学生を確保する。

【資料 3】山口大学学部別入学定員充足状況（令和 2～6 年度）

【資料 4-1～4-5】山口大学既設学部における入学志願状況等（令和 2～6 年度）

【資料 5】山口大学工学部 学科別 志願状況等（令和 2～6 年度）

（3）学生確保の見通し

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

山口大学では、アドミッションセンターを設置し、学部等と緊密に連携して、入学者選抜方法の改善等についての調査研究、学生募集に係る企画・広報及び総合型選抜の実施・

運営等を組織的に行っている。具体的には、学部等と連携して、本学の「ウェブサイト」や「キャンパスガイドブック(大学案内)」による情報発信、高等学校教員等を対象とした「大学説明会・相談会」の開催、本学に興味を持つ高校生や保護者を対象とした「大学見学」の実施、本学の教員が高等学校に出向き模擬講義を行う「出前講義」、大学の一大イベントとして定着した「オープンキャンパス」等の多様な機会を通じて、学生確保の取組を行っている。

併せて、工学部では高校生に分かりやすい学部案内「こーがくぶは、宝箱」「工学部研究紹介」、女子高校生のための学部案内「すすめ TECH GIRL」による積極的な情報発信、高校生を対象とした「進路説明会・相談会」及び「大学見学」の実施、高校側のニーズを把握するための学部長による高校訪問、本学の教員が高等学校に出向き模擬講義を行う「出前講義」、「オープンキャンパス」等の多様な機会を通じて、学生確保の取組を行っている。

上述の取組を行うとともに、「大学見学」の一環として、近隣の高等学校の 1 年生全員(240 人)を受け入れ、その高等学校を卒業した本学部学生から大学生活等の話を直接聞くことや大学施設・研究室を巡ることができる「大学体験セミナー」を実施している。また、令和 6 年度から DX 加速化推進事業(DX ハイスクール)に採択された山口県内の高等学校の高校生に DX 教育として模擬講義等の実施を積極的に行っている。

■ウェブサイトを活用した広報活動

山口大学は、令和 4 年 9 月にウェブサイトのプラットフォームを全面的に見直し、パソコンに加えてスマートフォン等の携帯端末からコンテンツ等が美しく効率的に閲覧できるようにリニューアルした。

また、山口大学のホームページに受験生専用のページを設けて、「山口大学について知りたい」「学部について知りたい」「キャンパスライフを知りたい」「入試について知りたい」等のメニューを準備し、さらに、「先輩が山口大学に入学を決めた理由」を掲載して、高校生等学外者が知りたい情報に容易にアクセスできるように工夫している。

「YouTube 山口大学広報室チャンネル」では、山口大学の四季ごとのキャンパス風景や学生生活を山口県の魅力とあわせて紹介した「大学紹介」、山口大学の入試制度を説明した「どうなる！？令和 7 年度入試」、各学部の教育研究の特色等を紹介した「学部等紹介」等の動画を掲載している。特に、大学生のキャンパスライフをコンパクトにまとめた「山大生的一天」は、掲載以降 3.7 万人が閲覧している。

「山口大学教員による学問のミニ講義(講義 video)」では、64 名の教員(うち、工学部教員 12 名)の講義 video を公開中であり、高校生等に本学教員の魅力ある学問を紹介し、オンライン上でミニ講義を体験できるようにしている。工学部教員によるミニ講義(講義 video)等のアクセス数は、令和 6 年度で 1,155 件あった。

また、同ページから、インターネット出願や資料請求ができるようにし、受験生の利便

性を図っている。

■広報誌による情報の発信

毎年度、主に高校生等を対象とした「こーがくぶは、宝箱」「工学部研究紹介」を発行し、来学者や希望者に対して、オープンキャンパス・大学見学等の様々なイベントの機会を通じて配布している。「こーがくぶは、宝箱」では、工学部の卒業生のメッセージとともに教育内容の説明、クラブ・サークル活動、イベント・行事、常盤キャンパスでの1日、学習環境、就職等の工学部（常盤キャンパス）での学生生活に関する情報をわかりやすく紹介している。「工学部研究紹介」では、工学部に所属する全教員の1人1人の一押しの研究内容が高校生向けにわかりやすいように紹介している。

また、女子高校生のための学部案内「すすめ TECH GIRL」は、女子高校生に工学部について興味を持ってもらうため、現役の女子大学生からの女子高校生に向けた工学部の魅力やアドバイス、女性卒業生からの女子高校生へのメッセージや理系の魅力・おもしろさ等を紹介し、女子高校生受験者の獲得に努めており、同広報誌を作成後、平成28年度には約14%だった女子学生の割合が、令和5年度には20%へ増加している。

■工学部オープンキャンパスの開催

本学では、毎年度8月初旬に3キャンパス(山口市吉田キャンパス、宇部市常盤キャンパス・小串キャンパス)で「オープンキャンパス」を開催し、コロナ禍以降は、感染防止対策を行った来場型とネットワーク環境を活用して参加できるオンライン型を併用して実施しており、工学部（宇部市常盤キャンパス）参加者数は令和5年度926名、令和6年度1,393名と増加傾向で推移している（いずれも来場型・オンライン型の合計）。

令和6年度は1,393名の参加があり、うち来場型は1,235名となっている。参加者に対するアンケート調査では、「山口大学を受験しようと考えているか」の問いに対して52.7%の参加者が「受験する」、また、「オープンキャンパスに参加しての山口大学の印象」の問いに対して86%が「良かった」「まあまあ良かった」と答えており、オープンキャンパスの高校生等に対するアピール度は高いものと評価している。

【資料6】山口大学オープンキャンパスへの参加者数の推移（令和5～6年度）

■大学説明会・相談会、高校訪問

「【資料7】山口大学令和6年度大学説明会・相談会の開催状況、高校訪問実績数」に示すとおり、「大学説明会・相談会」については参加者の利便性に配慮し、オンライン型及び来場型により大学独自に実施、また、外部機関主催のイベントに参加している。来場型は、これまでの受験実績等を考慮したうえで、各地域で実施及び参加している。さらに、要望のある高等学校に対して、直接訪問又はオンラインで入試説明会を実施している。

各高等学校の進路指導担当教諭に対して進路指導の参考にすることを目的とした「総合

型選抜説明会・入試公開説明会」を4回開催し、168名が参加している。また、高校生等を対象に総合型選抜、学校推薦型選抜及び一般選抜ごとに、オンラインによる大学及び学部説明会・相談会を開催している。「先輩に聞く!」の説明会では、高等学校の専門学科から入学した在学生による入試体験談や学生生活の話を中心に、本学の概要や総合型選抜、学校推薦型選抜の入試制度について説明を聞く機会としている。説明会の延べ参加者数は766人である。

また、大学案内等資料コーナーや個別相談ブースを設置する形式で、外部機関が主催する「進学説明会・相談会」に、九州地区8回、山口県2回、中国地区2回(山口県を除く)、名古屋市1回参加しており、延べ参加者数は302名となっている。

要望のある高等学校に対して、直接訪問又はオンラインで実施する入試説明会は、本学として県外の高校も含め22校(参加者数829名)の高等学校に実施している。

工学部独自でも、外部機関が主催する入試説明会を5回、高等学校に直接訪問又はオンラインで模擬講義、進路相談会、入試説明会等を県外も含め21校(参加者数400名)の高等学校等に実施している。

また、毎年度、工学部では、入学実績の多い山口県内の高等学校(25校)を学部長が訪問し、高校長及び進路指導担当高校教員と意見交換を行い、直近の高校側のニーズ等を把握し、受験者獲得に努めている。

【資料7】山口大学令和6年度大学説明会・相談会の開催状況、高校訪問実績数

■大学見学

工学部に興味のある高校生を対象に、大学見学を希望する者からメールによる申し込みにより大学見学を実施している。見学内容として、工学部紹介(50分程度)・キャンパス内自由散策(30分程度)・模擬講義(50分程度)・高校出身在学生との対談(30分程度)・研究室・図書館・福利厚生棟(食堂)等の施設見学ロングバージョン(50分程度)又は施設見学ショートバージョン(30分程度)のメニューを提供している。また、特別メニューとして、近隣の高等学校1年生全員(240名)を対象とした、大学見学を希望する高等学校を卒業した本学部学生から大学生活等の話を直接聞くことや大学施設・研究室を巡ることができる「大学体験セミナー」を実施している。

令和5年度は6高等学校528名の参加、令和6年度は4高等学校310名の参加があった。特に、「大学体験セミナー」のアンケート結果では、「セミナーに行くまでは、工学部は、工業みたいなイメージだったが工学部でも色々な学科があり面白そうだった。」、「さまざまな分野のことを山大では研究していて、説明してもらったり実際に実験を見てみたりして面白そうだったものがあった。また、大学は楽しそうだった。」と参加者の関心度・興味に関する声が多くあり、本学部への興味や何の研究・実験ができるのか等を知ってもらえる良い機会となっている。

【資料8】山口大学工学部大学見学一覧(令和5～6年度)

■多様なテーマによる出前講義

高等学校、小・中学校等の授業では取り扱われない学習内容を受講し、大学の授業の雰囲気を感じてもらおうことで、児童・生徒たちの高度な学習への意欲を引き出し、大学そのものに興味を持ってもらうことを目的に「出前講義」を実施しており、山口大学の専門教育の内容を高等学校、小・中学校等に出向いてわかりやすく講義している。

人文科学、社会科学、理学、応用科学、医学・福祉及び総合分野に区分して、本学のウェブサイトで 185 テーマの出前講義の詳細な情報について公表し、出前講義を希望する学校等は、オンラインで申し込みができる仕組みとしている。

学部、学科及び入試等の説明が必要な場合は、事前に申し込みを受け対応している。出前講義の講習料は無料とし、講師派遣に係る経費（旅費相当額）のみ山口県外は依頼校負担としている。令和 6 年度には、75 件（うち工学部教員実施 8 件）、対象生徒等数 2,516 名（うち工学部教員実施 270 名）が参加した。

【資料 9】山口大学令和 6 年度出前講義実績一覧

イ 新設組織における取組とその目標

改組する工学部においても、入試委員会を設置し入学者選抜の方針や方法を検討するとともにホームページによる情報発信、「大学説明会・相談会」、「大学見学」、「出前講義」、「オープンキャンパス」、「高校訪問」の多様な機会を通じて、工学部の魅力や入学者選抜方法についての関心や理解を深めてもらうとともに、県内外の高校生及び高等学校向けに分かりやすく丁寧な情報発信を行うことで、より効果的で適切な学生確保のための取組を推進する。

また、工学部に対する需要を確認するために、本学部への進学実績が多い中国地区・九州地区を中心とした圏域の高校を対象にして、改組する工学部の教育目的・特色、養成する人材像、教育課程及び教育方法、卒業後の想定される進路等を掲載したリーフレットを 286 校に配布し、アンケート調査（実施校 100 校、実施人数 9,136 名）を実施した。

アンケート調査結果では、改組する工学部に対して興味を抱く高校生が多くあったことから、中高校生及びその関係者等が入試情報を収集する際に最も活用されている大学のウェブサイトに専用のホームページを開設するとともにパンフレットを作成して、入学から卒業まで、教育支援、学生生活及び課外活動に関する多様な内容の情報を発信する。併せて、アンケート調査実施前に工学部長が山口県内の高等学校 25 校を訪問し高校長・進路指導担当高校教員に概要説明を行っており、令和 7 年度以降も継続して行っていく予定である。

さらに、令和 7 年度は全国最大規模で実施する高校 3 年生向け 6 月実施の模試前に、模試を受験する高校 3 年生で本工学部以外の大学を志望している併願大志望者に対して本工学部からのメッセージ配信（1,500 件）を行い、本工学部への出願者（受験者）の更なる

獲得を目指す。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

以上のとおり、本学はアドミッションセンターを設置し、学生募集に係る企画・広報及び総合型選抜の実施・運営等を組織的に行っており、多くの志願者確保を実現している。既存の工学部においても、広報委員会・入試委員会を置き、同様の取組を行うとともに、入学実績及び受験者等情報を参考にした高校訪問等を行うことで、安定した定員充足を実現している。

改組する工学部においても、令和 8 年 4 月以降も上記ア、イのような学生確保に向けた取組を引き続き実施するとともに、これまで以上に本工学部の設置の趣旨や特色等について説明する機会を数多く設けることで、創成工学科の入学定員 355 名及び建築学科の入学定員 55 名の安定的な充足を見込んでいる。

②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

本学部の競合校は岡山大学工学部（入学定員：令和 2 年度 452 人・令和 3～5 年度 599 人・令和 6 年度 629 人）、愛媛大学工学部（同：令和 2～5 年度 500 人・令和 6 年度 530 人）、長崎大学工学部（同：令和 2～6 年度 330 人）、鹿児島大学工学部（同令和 2～6 年度 440 人）を想定している。また、各大学とも本学と同じ国立であることに加え、いずれの大学の工学部でも近年、複数学科体制から 1～2 学科体制へと改組（工学系 1 学科のみか、本学同様に建築系学科を加えた 2 学科）したことが競合校として挙げた理由である。

本学の優位性としては、本学が立地する山口県は福岡県・広島県の二大都市圏に挟まれ、博多駅・広島駅から二時間圏内、小倉駅から一時間半であることから、三県からの志願者確保が容易である。また、本学部は本学の現・工学部と学位の分野を同じくし、志願する高校生も従来層と重なることから学生確保の見通しが立てやすいことも利点と言える。

イ 競合校の入学志願動向等

本学部の 4 つの競合校の入学志願状況、入学定員充足状況は次のとおりである。岡山大学工学部は令和 6 年度時点の入学定員 629 人に対し 1,282 人の志願者を確保しており志願倍率（志願者数÷入学定員）は 2.0 倍である。令和 2～6 年度では志願倍率は平均 2.1 倍、入学定員はいずれの年度も充足している。愛媛大学工学部は令和 6 年度時点の入学定員 530 人に対し 1,471 人の志願者を確保しており志願倍率（志願者数÷入学定員）は 2.8 倍である。令和 2～6 年度では志願倍率は平均 2.9 倍、入学定員はいずれの年度も充足している。長崎大学工学部は令和 6 年度時点の入学定員 330 人に対し 946 人の志願者を確保しており志願倍率（志願者数÷入学定員）は 2.9 倍である。令和 2～6 年度では志願倍率は平均 2.8 倍、入学定員はいずれの年度も充足している。鹿児島大学工学部は令和 6 年度時点の入学

定員 440 人に対し 1,195 人の志願者を確保しており志願倍率（志願者数÷入学定員）は 2.7 倍である。令和 2～6 年度では志願倍率は平均 2.9 倍、入学定員はいずれの年度も充足している。

以上のことから本学部の 4 つの競合校において入学志願状況は安定しており、また入学定員充足状況も良好であることから高校生の工学部への進学ニーズは高いと言える。

【資料 10】山口大学工学部 競合校の志願状況等（令和 2～6 年度）

ウ 学生納付金等の金額設定の理由

本学部の学生納付金は文部科学省が定める国立大学の入学金・授業料の標準額と同額に定める。入学金 282,000 円、授業料 535,800 円、初年度合計 817,800 円とし、進学希望者の過度な負担とならないようにする。

③学生確保に関するアンケート調査

以下は本学が工学部創成工学科の学生確保の見通しについて、第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）に依頼し実施した高校生アンケート調査の結果である。

＜高校生アンケート調査＞実施概要

調査内容	本学が 2026 年 4 月に設置構想中の工学部創成工学科/建築学科における学生確保の見通しを検証するために、高校生アンケートを実施した。 アンケート項目は全 7 問で、全て選択肢式とした。
調査実施時期	2024 年 12 月～2025 年 2 月
調査対象	2026 年度の大学入試を受験する可能性が最も高い高校 2 年生（2024 年度時点）をアンケートの対象とした。依頼対象校は以下とした。 - 山口県内全高校 - 令和 3～6 年度入学選抜において工学部既設学科（情報学部へ改組予定の知能情報工学科を除く）への志願者・入学者が多かった県外高校 2024 年度中、山口大学が令和 8 年度に設置構想中の情報学部に係るアンケート調査を実施しているため、同アンケート調査に回答し、かつ入学意向を示しているとした高校生は集計対象から除外
実施高校	合計 100 校 中国地方：山口県 29 校、広島県 12 校、岡山県 8 校、島根県 3 校、鳥取県 2 校 四国地方：愛媛県 4 校、徳島県 2 校 九州地方：福岡県 12 校、大分県 8 校、佐賀県 3 校、長崎県 2 校、鹿児島県 1 校 その他：兵庫県 5 校、大阪府 3 校、和歌山県 2 校、岐阜県・静岡県・愛知県・京都府各 1 校
実施人数	9,136 名、ただし有効回答者 8,701 名（情報学部アンケートに無回答または入学意向を示していない）
調査実施方法	高校側の希望に基づき、紙方式・WEB 方式のいずれかでアンケート調査を実施（内容は同じ）。 紙方式の場合、高校生アンケート調査用紙、工学部リーフレットを必要部数送

	付。ホームルームで配付の上、その場で回答し回収いただいた。 WEB 方式の場合、担当教員のメールアドレスにアンケート調査サイト URL およびアクセス用 QR コードを送付。自校対象生徒のタブレット端末等に配信の上、原則その場で回答し送信するよう促していただいた。
調査項目	回答者基本状況（居住地、性別、高校卒業後の進路、志望する大学等の設置者、興味のある学問分野） 山口大学工学部創成工学科/建築学科について（受験意向、入学意向）

高校生アンケート調査では、工学部創成工学科/建築学科の特色・学費・アクセスなどをリーフレットで示した上で、実施概要で示したような回答者基本情報に加え、工学部創成工学科への受験・入学意向等について回答を求め、9,136 名から回答を得て、そのうち情報学部アンケートに無回答または入学意向を示していない 8,701 名を有効回答とした。

その結果、創成工学科を「第一志望として受験する」644 名、「第二志望として受験する」317 名、「第三志望以降として受験する」267 名の合計 1,228 名が創成工学科への受験意向を示した。「第一志望として受験する」644 名のみで創成工学科の入学定員 355 名を上回る結果となった。受験意向を示した 1,228 名のうち、合格した場合に「入学する」とした 125 名、「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」とした 392 名の合計 517 名が入学意向を示した。

次に、高校卒業後の進路として「大学」を選択し、かつ志望する大学等の設置者として「国立」を選択し、かつ興味のある学問分野として本学科に関連する「機械工学」「電気通信工学」「土木建築工学」「応用化学」「環境工学」「工学その他」を選択した回答者のみを抽出しクロス集計を行った結果、「第一志望として受験する」323 名、「第二志望として受験する」166 名、「第三志望以降として受験する」171 名で合計 660 名であり、創成工学科の入学定員 355 名の 2 倍近い受験意向があった。入学意向については、「第一志望として受験する」とした上で、本学科に合格した場合に「入学する」86 名、「第二志望として受験する」「第三志望以降として受験する」とした上で、「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」259 名の合計 345 名であったが、「第一志望として受験する」とした上で、本学科に合格した場合に「現時点ではわからない・無回答」としたものが 237 名であった。

現工学部の合格者における令和 2 年～6 年度の 5 年平均の入学率（入学者数÷合格者数）は 86.7%であり、合格者の多くが入学する傾向にある。「第一志望として受験する」と回答しつつも、入学意向は「現時点ではわからない・無回答」とした 237 名においても、これまでの傾向から、合格した場合には十分入学が見込まれる。

これらのことから、創成工学科の入学定員 355 名の充足は十分に可能であると判断できる。

【資料 11】山口大学工学部創成工学科/建築学科(いずれも仮称)設置構想についての 高校生アンケート調査報告書

【(再掲)資料 5】 山口大学工学部 学科別 志願状況等（令和 2～6 年度）

④人材需要に関するアンケート調査

以下は工学部が養成する人材について、その人材需要の見通しについて、第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）に依頼し実施した人材需要アンケート調査の結果である。

<人材需要アンケート調査>実施概要

調査内容	本学が 2026 年 4 月に設置構想中の工学部創成工学科/建築学科が養成する人材について、人材需要アンケートを実施した。 アンケート項目は全 10 問で、9 問が選択肢式、1 問が記述式とした。
調査実施時期	2024 年 1 月～2 月
調査対象 (送付先)	工学部創成工学科及び建築学科の卒業生採用が見込まれる、山口大学の現・工学部の採用実績先の企業・公的機関等 1,006 箇所を対象とした。
回収件数	213 箇所（回収率 21.17%）
調査実施方法	調査対象先の名事・採用担当者宛に依頼状・人材需要アンケート調査用紙・工学部創成工学科及び建築学科リーフレット・返送用封筒を各 1 部送付した（依頼状には WEB 回答用サイトへの URL・QR コードを記載）。ご協力いただける場合は、紙方式・WEB 方式のいずれかのみで回答いただいた。
調査項目	回答元基本情報（主たる事業所所在地、主業種、従業員・職員規模） 工学部創成工学科/建築学科について（養成する人材の社会的ニーズ、養成する人材の採用意向 及び 採用したい場合の採用可能名数(単年度)、工学部創成工学科及び建築学科に期待する点）

人材需要アンケート調査では、工学部創成工学科/建築学科の特色・学費・アクセスなどをリーフレットで示した上で、回答元基本情報に加え、工学部創成工学科及び建築学科が養成する人材の社会的ニーズとその採用意向等について回答を求め、本社・本部所在地としては本学がある山口県 21 箇所、隣接する福岡県・広島県で 46 箇所の合計 67 箇所を始め、東京都 67 箇所を含む合計 213 箇所から回答を得た。業種別では製造業 70 箇所が最も多く、建設業 61 箇所、学術研究、専門・技術サービス 35 箇所、地方公務 14 箇所、国家公務 10 箇所など、幅広い業種から回答を得た。従業員・職員規模は 1,000 名以上の 96 箇所が最も多く、次いで 300 名～1,000 名未満が 69 箇所などであった。

創成工学科が養成する人材について「ニーズは高い」とした回答が 156 箇所で最も多く、「ニーズはある程度高い」の 41 箇所とあわせると創成工学科のニーズを認めたのは 197 箇所（92.5%）で、全体の 9 割以上を占めた。さらに養成する人材の採用意向については「採用したい」としたのは 175 箇所（82.2%）で全体の 8 割以上を占め、その上で単年度の採用可能人数は、少なくとも 388 名となり、入学定員 355 名を上回る採用意向があった。

このように本学が設置構想中の工学部創成工学科が養成する人材に対しては、高い人材

需要と採用意向が示される結果となった。

【資料 12】 山口大学工学部創成工学科/建築学科(いずれも仮称)設置構想についての 人材需要アンケート調査 報告書

(4) 新設組織の定員設定の理由

近年の技術革新に伴い、Society5.0 の実現と SDGs 達成のため、工学系人材の役割が増している。この背景を受け、山口大学工学部は現行の 5 学科を再編し、「創成工学科」と「建築学科」の 2 学科体制とする。創成工学科は 4 つの系（機械系、国土・環境デザイン系、化学系、電気電子系）を設置し、専門性と横断的な知識を兼ね備えた人材を育成する。我が国では、AI や IoT、ビッグデータ解析などの基盤技術の強化が求められている。しかし、日本はシステム化や統合の面で国際的に遅れをとっており、柔軟な教育体制の構築が急務とされる。特に少子化やデジタル・グリーン人材の不足、高等教育の理工系志向の低迷が課題とされ、大学の機能強化や文理融合教育、STEAM 教育の推進が求められている。山口県では「やまぐち未来維新プラン」に基づき、デジタル化や脱炭素社会への対応を進めており、地域の工学系教育機関の役割がますます重要となっている。

本学部の競合校として岡山大学、愛媛大学、長崎大学、鹿児島大学の工学部が挙げられるが、競合校の入学志願倍率は令和 2～6 年度の平均で 2.1～2.9 倍と安定しており、またいずれの年度においても入学定員を充足していることから、高校生の工学部への進学ニーズは高いことが分かる。

高校生アンケート調査では、工学部創成工学科と建築学科の受験・入学意向を調査し、9,136 名中、情報学部アンケートに無回答または入学意向を示していない 8,701 名の有効回答を得た。創成工学科は「第一志望～第三志望として受験する」の合計 1,228 名（14.1%）が受験意向を示し、入学定員 355 名を大幅に上回る結果となった。さらに、興味のある学問分野でクロス集計を行った結果、「第一志望～第三志望として受験する」の合計は 660 名であり、創成工学科の入学定員 355 名の 2 倍近い受験意向があった。

人材需要アンケート調査では、工学部創成工学科と建築学科の社会的ニーズと採用意向を調査し、全国 213 箇所の企業・機関から回答を得た。業種は製造業 70 箇所、建設業 61 箇所など多岐にわたり、従業員 1,000 名以上の企業が最も多かった。創成工学科について「ニーズが高い」との回答は 92.5%（197 箇所）、「採用したい」は 82.2%（175 箇所）で、単年度の採用可能人数は、少なくとも 388 名となり、入学定員 355 名を上回った。これらの結果から、高い人材需要と採用意向が示された。

以上の点を総合すると、本学部の創成工学科の入学定員を 355 名とすることは、社会的、地域的な要請に加え、競合校の入学定員や志願倍率、地域の学生確保の状況、人材需要の見通しを踏まえた上で適切な設定であると言える。